

キャラクター名
質田 三郎

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー ノイマン		ワークス	探偵	カヴァー	地味陰キャ高校生
	オプショナル		年齢	16	性別	野郎
覚醒	生誕	衝動	嫌悪	初期侵食率	32	%
出自	安定した家庭	経験	平凡	邂逅	いい人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	1	0	0			1	行動値	12
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	12
精神	4	1	3			8	戦闘移動	17
社会	1	0	0			1	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	6		RC			交渉		
回避			知覚	3		意志	1		調達	3	
運転:	2		芸術:			知識:			情報:	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
拳銃	
コネ：噂好きの友人	
コネ：情報屋	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
天才-ジーンズ	P	N		
家族	P 信頼	N 隔意		
クラスメイト	P 憧憬	N 疎外感		
和依/Killer Queen	P 好奇心	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：ノイマン	2	2	シンドローム					
効果： C値-Lv								
急所狙い	5	2	白兵/射撃					
効果： 攻撃力+Lv×2								
コントロールソート	1	2	射撃					
効果： 〈射撃〉判定【精神】で								
コンバットシステム	1	3	ジャリアアジョ					
効果： 〈射撃〉ゲイス+Lv+1								
支援射撃	3	2	オート	武器				
効果： 対象の判定直前ゲイス+Lv 自身対象不可 ライト1回								
栄光の血	3	4	オート	視界			80	
効果： 対象の判定直後に達成値+Lv×3 1DHP失う ライト1回								
DPP：天才	2	1d10	オート					
効果： 達成値+精神 シリアLv回								
衝動探知	1	3						
効果： 「何故わかるのかって？……探偵の勘ですよ」								
写真記憶	1							
効果： 「女子なら喜ぶと思って言ったんですよ、前髪切ったのか、2.7mmって。……すごい睨まれた」								
プロファイリング	1							
効果： 「こういう時はこう言えばいいですか？じっちゃんの名にかけて！」								
無面目	1							
効果： 「……凡人顔で悪かったですね」								
効果：								
効果：								

しちだ さぶろう

一人称：僕
二人称：君/貴方
基本年上には敬語

眼鏡以外にあまりにも特徴のないモブ顔眼鏡
趣味は読書。純文学から漫画まで割りと何でも読む、本の虫。あとゲームも好き。どっちかというアナログゲーム派だけどコンピューターゲームもすぐ表情筋は仕事しない、学校でも一人でいたがる、けど一応孤立しすぎるとそれはそれで浮いて嫌なので適度に馴染みつつ適当に友達というものを作りつつごしてる。でも思ったことは結局言うときゃ言うのでイキってるように思われたりたまにワルたちに絡まれていじめられたりしてる。たまーに痣作って帰ってくる。鉛ちゃんやチョコやチーズキャンディをがま口ポーチにいれて常備してる

好きなもの：お魚、焼いたのも生もしゅき。大根おろしもあったらなおよし。
あとこみえて花丸ハンバーグとかが喜ぶ。旗とか立てられたらもっと喜ぶ。顔には出さない、出してない…つもり。
嫌いなもの：犬、昔襲われたことがある。写真とかちっちゃい可愛いのとかがはいいけどでかいのが吠えるのはビビる。食べ物グリーンピース、もっそもっで食感がすごいやだ。あと香辛料、普通の辛さは大丈夫だけど辛すぎるのは無理。いやしんどい。ものによっちゃ臭いでもう顔をしかめる。

ざっくり経歴
生まれたときからオーヴァードとして覚醒していた。幼い頃は人よりも勉強もよくできると誉められていたが段々両親から少しずつ不審がられ本人もなんとなく自身が異常だと気づき始める。それからは何となく周りにあわせて程ほどに生きていくようにしていった。基本いい子になるように過ごしてきたけれどたまにわんぱくというか、変に好奇心が強い子供でもあった。幼少期に一度なんとなく夜中に家を抜け出して外をぶ